

研究課題番号	5-1801
研究課題名	革新的モデルと観測・室内実験による有機エアロゾルの生成機構と起源の解明
研究実施期間	平成30年度～令和2年度
研究機関名	(国研) 国立環境研究所
研究代表者名	森野 悠

## 1. 委員の指摘及び提言概要

研究計画に沿って全体として順調に研究が実施され、当初の目標を十分に達成していると評価される。有機エアロゾルの生成機構と起源推定という目標に対して、フィールド調査、チェンバー実験、モデル開発というアプローチで十分な成果を上げている。SOAの生成量の評価はPM2.5としての評価だけでなく、オゾンとVOCの相互作用の面からも環境行政にとってきわめて重要である。国立環境研究所を中心に大学、地公研が協同するという研究体制が効果的に機能し、推進費での研究のモデルとなる事例である。我が国の環境衛生行政を支えるエビデンスを生む環境研究助成としてこの研究組織のパターンは、政策科学の基礎となる課題の解決という点で評価に値する。「国民との科学・技術対話」も十分に実施されている。

## 2. 採点結果

評価ランク：S